研究速報

消化器腺癌に対するモノクローナル抗体（19—9）の有用性に関する検討

古川　信　小坂　進　芦田　義尚
櫛引　健　斉藤　人志

従来より腫瘍が産生したり，合成したりする物質などが，腫瘍マーカーとして利用されCarcino embryonic Antigen（CEA）などが，臨床面において，その診断的価値の評価もある程度固まってきている．一方，最近，細胞融合法の開発により，種々の腫瘍の単一クローン抗体が作成され，それを用いて腫瘍の診断，治療を行う企てがなされている．われわれはWister研究所により開発された腺癌に対するモノクローナル抗体1116N—19—9（19—9）を[1]用いて，種々の患者血清より，腫瘍抗原を検索し，同時に測定したCEAとの比較において，その診断学的有用性を検索した．

対象および方法

当科に入院した患者と無作意に抽出した64例を対象とした．その疾患名は胃癌19例，大腸癌16例，その他の悪性腫瘍群14例（内訳は乳癌3例，食道，肝，胆道癌が各2例，甲状腺癌，小腸平滑筋肉腫，舌癌，皮膚紡錘形肉腫おのおの1例），良性疾患群として15例（内訳イレウス4例（単純2，絞扼2），甲状腺腫，胆石症，消化性潰瘍おのおの2例，その他5例）である．これら対象は手術され，組織学的診断がつけられている．その術前，術後において採血し，CEAはDiabot kit，19—9はCentocor Ca 19—9™ RIA kitにて測定した．

結　果

19—9の各症例の陽性率（表）は胃癌で8/19（47.3%），大腸癌6/16（37.5%），その他の悪性腫瘍群1/14（7%），良性疾患群2/15であった．これに対し，CEAのfalse positiveをなくすため，そのcut off値を5 ng/mlとしてみると，その陽性率は胃癌21.4%，大腸癌18.7%でその他の群には陽性をみなかった．大腸癌，胃癌の群においては症例数が少ないが，19—9もCEAと同様[2]にStageが進む程，陽性率が上る傾向がみられた．19—9が良性疾患群で陽性に出た2例はいずれも絞扼性イレウス例であり，悪性腫瘍群のそれは胆道癌であった．陽性を呈した17例はいずれも，術後低下がみられ，治癒切除がなられたものは陰性になった．

表

疾患別　19—9 CEAの陽性率		
	19—9	CEA
胃　癌	47.3%（8/19）	21.4%（4/19）
大腸癌	37.5%（6/16）	18.7%（3/16）
その他悪性腫瘍	7%（1/14）	0%（0/14）
良性腫瘍	13.3%（2/15）	0%（0/15）

Stage別　19—9陽性率					
Stage	I	II	III	IV	V
大腸癌	0/0	0/3	2/5	3/5	1/3
胃　癌	0/1	0/3	2/3	6/12	

以上の結果より，19—9においては，絞扼性イレウス例でfalse positiveを認めたが，CEAのように肝炎，高齢者，喫煙者にfalse positiveは認めないようで，腺癌そのものに対する陽性率はCEAのcut off値を5 ngにおくかぎり，CEAのそれより高いことから，CEA同様，腺癌の診断およびモニターとして，その診断的有用性は充分あると考えられた．

結　語

腺癌に対するモノクローナル抗体（19—9）を測定し，CEAと比較検討し，その診断学的有用性は，CEAと同様，ないしそれ以上と考えられた．

索引用語：腺癌モノクローナル抗体

文　献

1）Herlyn M, Henry F S, Steplewski Z et al: Monoclonal Antibody Detection of a Circulating Tumor-Associated Antigen. J Clin Immunol 2: 135—140, 1982
2）谷内　昭：癌胎児性抗原．総合臨30：278—284, 1981

金沢医科大学消化器外科〈昭和58年2月21日受付〉

DIAGNOSTIC USEFULNESS OF MONOCLONAL ANTIBODY (19-9) DETECTION FOR DIGESTIVE ORGAN CANER

Makoto FURUKAWA, Susumu KOZAKA, Yoshinao ASHIDA, Ken KUSHIBIKI, and Hitoshi SAITO
Department of Gastroenterological Surgery, Kanazawa Medical University